

「創造的復興」の理念を活かしたウクライナ支援検討会 第1回現場視察

○第1回検討会において、セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ大使より、ウクライナにおける義肢装具に関するノウハウの不足等の問題提起があったため、今後のウクライナ支援の方向性を探るべく、同大使より紹介のあったAndrey Stavnitser氏（ウクライナ(リビウ)でリハビリのための医療センターを運営）と岡部座長が、県立福祉のまちづくり研究所を視察し、齋藤知事及び陳 同研究所所長と意見交換を行った。

- 1 日時 令和5年4月24日(月) 15:30～16:30
- 2 場所 兵庫県立福祉のまちづくり研究所(神戸市西区曙町1070)
- 3 視察者 Andrey Stavnitser Superhuman Clinic 代表
岡部 芳彦 座長
- 4 応対者 齋藤 元彦 知事
陳 隆明 県立福祉のまちづくり研究所 所長
- 5 主な意見



区分

主な意見等

- | 区分 | 主な意見等 |
|--------|---|
| ウクライナ側 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 戦争によりウクライナでは1万～1万2千人が義手・義足を必要としている。 ◆ 義手・義足はどれだけいいものが手に入ったとしても、リハビリに向けた知識や指導できる方々の存在が重要だが、ウクライナでは再建に関わる医師、リハビリに関わる専門家・作業療法士などが非常に少ない。 ◆ そこでオンラインでも対面でもよいので、ウクライナの医師に対して指導して欲しい。 |
| 兵庫県側 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育はドクター単身で行ってもあまり得るものはなく、治療対象となる患者や、ある程度道具がそろってないと難しい。 ◆ 本県では過去にも研修を受け入れてきた実績があるので、ウクライナから来ていただくのがよいのではないかと。今後様々な方策を検討していきたい。 |

